

「外科的歯内療法」説明文書

外科的歯内療法について

外科的歯内療法は、通法の根管処置では根尖病変が治癒しない場合に行われる手術です。一般的に、1) 歯肉を剥離して、直視下で病変を確実に除去するものと、2) 一度歯を抜歯して、直視下で病変を確実に除去するものと大きく分けて二つの方法があります。他に、歯根嚢胞を合併している場合、歯周疾患と合併している場合、歯の根に穿孔を起こしている場合、高価な補綴物が装着されており除去できない場合に行われます。

チェック

手術以外の方法について

根本的治療ではありませんが、症状を緩和させる対処療法として、以下のよういくつかの方法があります。

(急性症状がある場合：抗生剤・消炎剤の全身投与・咬み合せの調整)

チェック

今回の手術の部位と目的

部位：

目的：根尖の封鎖

チェック

麻酔について

手術には局所麻酔薬を使用します。現在使用されている局所麻酔薬に対するアレルギーの発症頻度は、1%未満といわれています。他科疾患を有している患者様は、必ずお知らせ下さい。

チェック

手術に伴う不快症状について

手術後の不快症状として、痛み、腫れ、出血が挙げられます。痛みは、鎮痛剤でコントロールできるものがほとんどですが、術後数日間腫脹を伴うことがあります。術後出血が続く場合は、連絡をして下さい。術後数日経過して生じる不快症状として、粘膜を牽引して縫合するため、歯肉のつっぱり感が残存することがあります。また、歯の根の先の骨が治癒するには3ヶ月から1年かかるため、その間、根の先を押さえると違和感が残存することがあります。

チェック

手術後管理

手術後の1週間（糸をとるまで）は、創部の安静と清潔が大切です（手術後に担当医が詳しく説明します）。

チェック